

『君が』 作：ポチ子

『君が』 作：ポチ子

君がいなくても生きていけることを知った。

あの時はあんなに泣いたけれど、

時間がたって、

君の物が家からどんどん無くなって。

服も、コップも、歯ブラシも、

一緒に撮った写真だって、

機種変したから全部消えてしまった。

どこかに残しておく、

そんな必要もないと思った。

君がいた時は、

息をするには君が必要だと思ってた。

でも、そんなことなかったんだね。

君がいなくなって初めて分かったよ。

私にとって君は何だったんだろう。

どうして一緒にいたんだろう。

その時は分かっていたけど、

もう忘れてしまった。